

平成26（2014）年度
東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻
修士課程（文化・人間情報学コース）
入学試験問題
専門科目

（平成25年8月19日 14：00～16：00）

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

1. 本冊子は、文化・人間情報学コースの受験者のためのものである。
2. 本冊子の本文は4ページである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には申し出ること。
3. 解答用紙は3枚ある。第1問は、解答用紙1枚を使うこと。（裏面を使ってもよい）第2問は、選択した用語ごとに解答用紙1枚を使うこと。このほかにメモ用紙が1枚ある。
4. 解答用紙の上方の欄に、問題の番号（例：「第1問」）、選択記号がある場合にはその記号（例：「第2問（a）」）及び受験番号を必ず記入すること。問題番号、選択記号、及び受験番号を記入していない解答は無効とする。
5. 解答には必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
6. 第1問は日本語で答えること。第2問は日本語か英語で答えること。
7. 試験開始後は、中途退場を認めない。
8. 本冊子、解答用紙、メモ用紙は持ち帰ってはならない。
9. 次の欄に受験番号と氏名を記入せよ。

受験番号	
氏名	

文化・人間情報学 第 1 問 Question L1

次の (A) (B) 二つの文章を読んで、問 1 から問 3 に日本語で答えなさい。第 1 問全体 (問 1 から問 3 まで) で解答用紙 1 枚を使いなさい。ただし裏面も使ってよい。(A) は科学哲学者が東日本大震災をめぐって書いた論考であり、(B) は社会学者が「2・26 事件」後、言論が統制されたなかで書いた論考である。

(A)

下記出典の文章を掲載しています。

(出典：野家啓一「東北の地から⑤信頼の危機」『書齋の窓』No. 617、2012 年 9 月号)

(B)

どこからどこまでが流言蜚語であるというふうに、はっきりとした区劃くかくを与えることは困難であるが、この流言蜚語という言葉自身、例えば風評とか噂とかいうものとは違って、もっと異常なスリルを感じしめるもののように思われる。確かにそれは社会生活において普通にあるものではなく、謂いわば或る程度までアブノーマルなものである。まず流言蜚語はアブノーマルな報道形態として規定することが出来る。これを一種の報道として考え、一般の報道と結びつけて考察するという事は、人々が流言蜚語について云々する場合に広く採用する方針である。私も差当りこれを一種の報道として見て行こうと思う。

(中略)

それは一種の飢えである。飢えは生理的なものであり、健康の象徴であると共に、それ自身健康なものである。飢えは凡て生きるものの権利である。飢えを特きに賞揚する必要はないが、これを軽蔑することは慎まねばなるまい。激しい飢餓きに襲われた人が何でも手に入るものを食ってしまうように、交通や報道がその機能を果さない状況の中に立たせられた人間は、環境に関する知識を、たとえそれがどのように荒唐無稽なものであろうとも、直ちに呑み込んでしまう。飢えが人間の権利である以上、そしてこれをノーマルな方法で充すことが拒絶されている以上、これは当然なことでありまた健康なことであるのかも知れぬ。選ばずに食うことを非難しようと欲するものは、まずその飢えが余り激しくならぬように努めるべきだ。

(中略)

内容の側から見て報道と流言蜚語とを区別することは大体不可能である。しかし人々は形式上の差異に基づいて両者をはっきりと区別している。根本的に考察すれば、流言蜚語と報道との真の差異であるように見えた事実との一致或は不一致なんらということとは実際においては何等区別の標準として働くことなく、これと無関係な尺度が作用していると言うことが出来るであろう。人々は二つのものを区別しているが、それは知識に基づいて区別しているのではない。知識は事物そのものを自分の眼で見、自分の耳で聴き、自分の手で触れようとする人間の活動であり、またその成果である。こういう知識の世界を守っている限り、報道と流言蜚語とを区別することは不可能である。今は知識の世界を出て人々は信仰の世界に立っているのだ。二つのものを区別するのは知識でなくて信仰である。信仰と言って悪ければ、信頼と言い換えてもよい。とにかくそういう知識とは別な態度を俟まって初めて両者の区別が可能になるのである。

(出典：清水幾太郎『流言蜚語』筑摩書房、2011年(原著：1937年)より、一部改変)

問1 問題文 (A) の下線部の意味を 150 字程度で説明しなさい。

問2 問題文 (A) と (B) 双方の「信頼」をめぐる観点や主張を比較し、両者の共通点と相違点を 250 字程度で説明しなさい。

問3 東日本大震災(福島第一原発事故を含む)以降の日本社会の状況のなかで、あなたが学際情報学府で進めたいと考えている研究はどのような可能性と課題を持つか。問題文 (A) と (B) の論点に関連付けつつ、解答用紙 1 枚の範囲内(裏面を使ってもよい)で述べなさい。

文化・人間情報学 第2問 Question L2

以下の(a)から(f)の6問のうち、2問を選び、それぞれ20行以内で説明しなさい。英語で答えてもよい。ひとつの問題について1枚の解答用紙を使い、解答文のはじめに、必ず選んだ記号を示すこと。

(a) 実験的研究 (experimental study) とフィールド研究 (field study) とを、対比しつつ説明しなさい。

(b) 教育評価における「形成的評価」と「総括的評価」の関連・差異について説明しなさい。

(c) ヒューマンエラーの発生原因における「スリップ (slip)」と「ラプス (lapse)」と「ミステイク (mistake)」の違いについて例を挙げて説明し、それぞれについての対策を述べなさい。

(d) 元号と歴史認識の関連について説明しなさい。

(e) 「モダニズム」と「モダニティ」の概念内容についてそれぞれ説明し、両者の理論的・歴史的関係について論述しなさい。

(f) 形式知と暗黙知について対比しながら説明しなさい。